

# 第8回 Saitama Line 2018. 1. 28

## 『絵本はなんで読むの？ -絵本の魅力と可能性-』

### 報告号

講師: 絵本専門士 大河原 悠哉 先生

インフルエンザが大流行し、都心では4年振りに大雪警報が出たこの週。まだ積雪の残る中、熊谷市にて Saitama Line が開催されました。今回のテーマは「絵本」。保育の中では切っても切り離せないほどのツールでもある絵本。現役保育士であり、絵本専門士もある悠哉先生の楽しい講義を少しだけ紹介します！



### ・絵本ってなあに？

まず、『ペンギン体操』で体を動かすところから始まった講義。『フルーツケーキいただきます』『サンドイッチいただきます』でご挨拶。絵本とは？という問いかけに、参加者はそれぞれ思いをめぐらしました。基本的に「絵本」とは、【絵+文】で成り立つものを指すそうです。最近では例外なものも出てきましたが、絵+文を象徴するのが『ロージーのおさんぽ』と『ハンダのびっくりプレゼント』の二つ。これらの絵本、絵を見ないで“文だけ聞く”のと“絵を見て聞く”のでは全く話の展開が変わってきます！（ぜひ実践してみてください！）

### ・実は違う？大人と子どもの絵本の見方

みなさんは、子どもと絵本について話をしているかみ合わなかったことがありますか？大人はストーリーや表紙などメインのものを主として捉えますが子どもは大人とは違った視点で絵本を見ています。『めんどりペニー』を“どんぐりの本”といたり、『おつきさまこんばんは』を“猫の本”といたり、子どもの絵本の捉え方は面白いと大河原先生は言います。絵本の読み方でも、大人は、文を読むと次のページをめくりたくなるものですが、子どもはそれ以上にそのページから何かを受け取っているという話を聞き、読むだけが絵本の見方ではないのだと気づかされる事例でした。

### ・絵本の中に隠されているもの、新たな発見!!

そして、絵本には作者の遊び心やメッセージがあることが紹介されました。『はじめてのおつかい』（筒井頼子：作、林明子：絵）は多くの方が保育の現場で目にしたことのある絵本だと思います。では、その絵本の中の登場人物が『とん ことり』や『あさえとちいさいもうと』の本の中にこっそり登場していたことをご存知ですか？そんなちいさな発見を知っているだけで、その1冊が自分にとって特別な本になる感覚を今回の講義のなかで感じる事ができました。



### ・なぜ、絵本を読むのか？

保育士指針や幼稚園教育要領の中にも絵本の必要性を明記した文言あります。講義の最後に、「子どもに絵本を毎日読んであげられるのは保護者以外に先生しかいない！先生自身が絵本の世界を広げ、様々な絵本体験を子どもたちに与えることが大切！そのためには、まず先生自身が絵本を楽しみましょう！」という言葉で締めくくられました。実際多くの絵本と触れ合ったこの日、もっといろんな絵本を知りたいと気持ちが大きく動かされました。